



クルーズ寄港 今年は26回



一番乗りは 韓国から

入港したのは、イタリア船籍の「コスタ・ピクトリア」(7万5166トン)。韓国からのチャーター船で、韓国から約1800人を乗せ、6日に韓国を出港した後、ロシア極東ウラジオストクとサハリン・コルサコフを経由し、10日午前9時に小樽港に入港した。

小樽港に寄港する今年初のクルーズ客船が10日、同港勝納埠頭に入港した。韓国からの客船だったため、小樽商大で韓国語を学ぶ学生が初めて通訳ボランティアとして、上陸した乗客からの問い合わせに対応。今年はクルーズ客船が計26回寄港する予定で、市は観光振興につながることを期待している。
(西出真一朗)

観光@しりべし

樽商大生 手作り地図で歓迎

客船が勝納埠頭に接岸すると、商大の学生4人が客船のバルコニーにいた乗客にマイクを使って「小樽に来てくれてありがとう。地図を作りました。無料なので手にとってください。」などと韓国語でいさづ。上陸した乗客に韓国語の観光案内地図を渡し、小樽観光をPRした。地図は同大の学生が昨年、クルーズ客船の乗客向けに製作した。妻と訪れた朴熙善さん(77)は「今回の旅は子供からのプレゼント。小樽の温泉に行きたい」と話した。地図の製作にも携わった同大大学院修士1年の上山梨佐さん(22)は「貴重な経験になりました。韓国語観光客に会ったら案内をしたい」と話していた。同客船は11日に秋田に寄港した後、13日に韓国に戻る。今年もクルーズ客船が今回も含めて小樽港に計26回寄港する予定だ。昨年とは25回寄港する道内の港では函館に次いで2番目に多かった。市はクルーズ客船の誘致に向け、秋に東京で小樽港をPRする事業を予定。市港灣室は「余市町や仁木町などの北後志の観光協会とも連携して、特産品や観光地としての魅力を広めたい」と話している。

豪華客船コスタ・ビクトリア入港！商大生マップ配布 (2017/05/10)

ツイート

春の訪れとともに、今シーズン第1号となるクルーズ客船「コスタ・ビクトリア」(75,166トン)が、5月10日(水)9:00に勝納埠頭2番岸壁に寄港。同日18:00に秋田へ向けて出港した。

今年度は、同船を皮切りに、10月8日(日)13:00の初寄港イタリア船籍「コスタ・フォーチュナ」(102,587トン)まで、延べ26隻の寄港を予定している。



同船は、韓国発着5泊6日のツアーで、約1,800人が乗船。そのうち1,500人がバスツアーに出かけ、300人がフリーで小樽の映画の舞台となった場所を散策して楽しんだ。

ほとんどが韓国からの観光客ということで、小樽商科大学・言語センター李賢峻准教授と同大1年から大学院生までの男女4名がボランティアとして参加。

予定より1時間早い9:00の入港に合わせ、接岸する岸壁に集合して、韓国語で歓迎スピーチや乗船客の通訳を行い、学生有志が

制作に携わり2015(平成27)年4月に完成した外国人観光客対応の観光案内マップ1,000部を配布。初の試みとなった。

岸壁では、小樽おもてなしボランティアの会から8人が参加。小樽観光協会で物販ブースも設けられ、乗船客へおもてなしムードを高めた。

商大生ボランティアは、下船する乗客へ「アニハセヨ！」と声をかけ、マップを手渡したり、両替所の場所などを聞かれ親切に対応した。

李准教授は、「練習の時よりも歓迎スピーチは立派にでき嬉しく思う。地域のボランティア団体と協力し合い、触れ合うことで良い経験となり、社会勉強にもなった。地域に貢献できれば嬉しい」と話した。

同大・水口翔太郎君(1年)は、高校1年の終わり頃から韓国語を勉強し、現在10ヶ国語を勉強中。「独学で勉強し、韓国語の会話は大学の先生と2人ほどとしか話していない。韓国の方との会話を楽しみにしていたので、会話ができて良かった。写真を撮りますか？と韓国語で尋ねた。今後、機会があれば参加したい」と話した。



今回配布したマップは、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC事業)」と小樽市産業港湾部観光振興室の協力を得て実施。

同大・言語センターの嘉瀬達男教授と李賢峻准教授の指導の下、中国語と韓国語を学ぶ有志20名の学生(うち4名留学生)が、以前に発行された英語版観光案内マップを参考に、小樽を訪れる中国語・韓国語を話すクルーズ客船の乗船客をはじめ、外国人観光客に対応した観光案内マップ(各5,000部)を完成させた。学生の語学

力の向上を図りつつ、観光客をもてなすことを目的として作られた。

5月22日(月)の同船入港時にもボランティアを実施する予定。

◎[関連記事1](#) ◎[関連記事2](#) ◎[関連記事3](#)



荘厳な音色 50周年祝う

樽商大管弦楽団

小樽商科大室内管弦楽団の創立50周年記念演奏会が、小樽市民センター・マリンホールで開かれ、約150人の観客が集まり弦楽器や管楽器などの荘厳な音色を堪能した。

同団の卒業生で作るOB会が主催し、5年に1度開催している。6日の演奏会には、OBや現役生ら61人が参加した。

同大の寮歌を演奏した後、ワーグナーの楽劇「ニルンベルクのマイスタージンガー」やヴェーバーの「運命」など4曲を披露した。

小樽商科大室内管弦楽団の創立50周年記念演奏会

指揮者を務めた野沢巧さん(47)は「音楽に対する熱意と経験を今後も記念演奏会を開くことで若い世代へ伝えていきたい」と話した。

(徳留弥生)